

(特活) 多言語センター FACIL

〒653-0052 兵庫県神戸市長田区海運町 3-3-8 TEL 078-736-3040 FAX 078-737-3187  
 理事長: 吉富 志津代 e-mail: facil@tcc117.org URL: http://www.tcc117.org/pro-cube

の医療通訳システム構築モデル事業」もあ  
 ります。医療通訳は、医療機関が患者との  
 最も大切な「コミュニケーション」を考えた時  
 に、当然視野に入れなければならない。日  
 本語の理解の不十分な人たちへのサービス  
 であるはず。にもかかわらず、それを  
 患者の自己責任と考えている場合が多く、  
 地域住民でありながら十分な医療サービス  
 が受けられないことも多いのです。通常の  
 通訳者を患者が雇うにはあまりにも高額で  
 あり、これを誰が負担するのかという問題  
 から、我慢をしようとする患者もいます。こ  
 の状況を改善するために、FACILでは  
 一年ごとの助成金を得ることで、モデル的  
 に医療通訳者を派遣するという活動をほそ  
 ぼそと五年ほど続けてきました。それなり  
 の技術を持つ通訳者がボランティア意識  
 で協力してくれていますが、ある程度の交  
 通費や謝金の捻出のためには、どうしても  
 助成金がなければ実施はできない現状があ

<在日外国人のための多言語生活ガイド・阪神版>

在日外国人のための 多言語生活ガイド		
今日は	今日	HOJYO
Hello	你好	NIHO
どうも?	你好嗎?	NIHO DESU KA?
はい!	好	II
どうも!	你好!	NIHO DESU!
Good day	你好	NIHO DESU DESU
Good night	晚安	YORU NIHI
Good morning	早上好	ASA NIHI
Good afternoon	下午好	ATAKAMA NIHI
Good evening	晚上好	YUUBI NIHI
Goodbye	再見	BYE BYE
Thank you	謝謝	THANK YOU
Excuse me	對不起	SORRY
Sorry	對不起	SORRY
Yes	是	II
No	不是	II
Yes, please	是, 請	II
No, thank you	不是, 謝謝	II
Yes, please	是, 請	II
No, thank you	不是, 謝謝	II

また社会的な課題解決のためにモデル的に取り組んでいる「兵庫県内  
 の医療通訳システム構築モデル事業」もあ  
 ります。医療通訳は、医療機関が患者との  
 最も大切な「コミュニケーション」を考えた時  
 に、当然視野に入れなければならない。日  
 本語の理解の不十分な人たちへのサービス  
 であるはず。にもかかわらず、それを  
 患者の自己責任と考えている場合が多く、  
 地域住民でありながら十分な医療サービス  
 が受けられないことも多いのです。通常の  
 通訳者を患者が雇うにはあまりにも高額で  
 あり、これを誰が負担するのかという問題  
 から、我慢をしようとする患者もいます。こ  
 の状況を改善するために、FACILでは  
 一年ごとの助成金を得ることで、モデル的  
 に医療通訳者を派遣するという活動をほそ  
 ぼそと五年ほど続けてきました。それなり  
 の技術を持つ通訳者がボランティア意識  
 で協力してくれていますが、ある程度の交  
 通費や謝金の捻出のためには、どうしても  
 助成金がなければ実施はできない現状があ

# クローズアップ NGO・NPO

特定非営利活動法人

## 多言語センター FACIL

地域社会における  
コミュニケーション活動

ります。これを行政、医療機関、通訳者  
 コーディネート機関が協力し合うことで、  
 なんとか仕組みにつなげたいと奮闘中で  
 す。今年度は、医療通訳において先駆的な  
 医療機関の現状を、兵庫県内の医療機関に  
 も伝えるためのプロジェクトに着手してい  
 ます。

その他、「世界  
 の食卓とおもてなしの出前サービス」  
 の出前サービ  
 ス」という、二〇  
 力国の登録シエフ  
 が活躍する楽しい  
 プログラムもあり、  
 「法事に親戚が二  
 〇名ほど集まるの  
 で、ベトナム料理  
 を」とか「ブラジルに住んでいた仲間の同  
 窓会にブラジル料理を」、また「タイの料  
 理教室を」といった依頼にこたえています。  
 地域の国際交流イベントは増え、多国籍料  
 理を味わえる機会は多くなったといえ、  
 そこから先の交流には進まないで、多文  
 化をもう少し身近なものとして実感して  
 らうためのプログラムです。

そして、二〇〇七年度からはFACIL  
 と一緒に活動を続けてきた仲間の団体であ  
 る、多言語「コミュニケーション」局「FMわい  
 わい」、多様なルーツをもつ子どもたちの教  
 育環境のためのサポート活動などを展開す  
 る「ワールドキッズ」コミュニティ、世界の



↑「世界の食卓とおもてなしの出前サービス」の  
 プロモーションイベント

「コミュニティラジオ局のネットワークのた  
 めの日本事務所「AMARC日本協議会」  
 などの事業グループ化をして、グルー  
 プ全体のスタッフ雇用継続のための経営の中  
 心的な役割を担うようになりました。

このように「コミュニティビジネス」とい  
 う分野で、移民の希少言語に少しずつ資産的  
 な価値をつけることで、移民自身の仕事づ  
 くりや社会参加を促進、外国にルーツを持  
 つ子どもたちのアイデンティティへの自信  
 づけなどにもつなげていきたいと思っ  
 て活動を続けています。しかしまだ課題も山積  
 しています。情報の内容は、単なることば  
 の置き換えではなく、ことばが背負ってい  
 る文化や習慣にも配慮した双方の「コミュ  
 ニケーション」という視点で伝えなければな  
 りません。そういう意味における専門性を  
 磨いていくことも大切です。そしてこのよ  
 うなミッションと、プロフェッショナルな  
 事業性のバランスを保つことは、非常に難  
 しい現状があります。多言語事業を依頼す  
 る側も含めて地域住民である社会のあらゆる  
 分野の人々が、何のための多言語情報提  
 供なのか、その分野の専門性とはどのよう  
 なことであるかといった理解と意識変革  
 も、私たちのような市民活動を継続するた  
 めには必要だと考えています。そのプロセ  
 スは長い道のりではありますが、震災から  
 一五年、当時と比較すると、確かな手応え  
 を感じているので、継続のための智慧を出  
 し合っていきたいと思えます。

一九九五年一月十七日、多くの犠牲者を  
 出した阪神・淡路大震災時には、さまざま  
 な不安を抱えながら地域社会に暮らす住民  
 の存在が浮き彫りにされました。その中に  
 は、「ことばの壁」によって情報難民となっ  
 た人々も含まれています。日本語と外国  
 語が理解できる外国出身者も含むたくさん  
 のボランティアたちが、その壁を越えるた  
 めの支援活動を開始しました。多言語セン  
 ターFACIL(以下、FACIL)は、  
 そのボランティアたちを母体に、震災時だ  
 けではなく日常的な「コミュニケーション」  
 のために、一九九九年六月、「兵庫県コミュ  
 ニティビジネス離陸助成金」という資本  
 金を得て任意団体として設立され、二〇〇  
 六年八月に法人格を取得しました。FACIL  
 は、多文化共生のまちづくりに寄与す  
 ることを目的とし、多言語・多文化をキ  
 ワードにしたネットワークを地域社会の活  
 力として生かすためのコーディネーター役  
 として、

(1)これまで運用があまりであった分野  
 における翻訳・通訳業務に適正基準を  
 設け、地域ニーズへの安定的基盤をつ  
 くる。あわせて、翻訳・通訳能力の開  
 発や雇用機会の拡充につなげる。  
 (2)在日外国人コミュニティの自助活動に  
 寄与する。  
 (3)多言語・多文化環境政策に提言を行う。  
 という目的で、これまで専門分野でありな  
 がら「ボランティア」の領域であった活動

を「コミュニティビジネス」という分野で展開  
 させ、多岐にわたる事業を行っています。  
 設立から一〇年を経て、翻訳/通訳登録  
 者は約五〇〇名となり、二八言語で、地域  
 情報、行政情報、観光関連、国際会議/セ  
 ミナー関連、交流などさまざまな分野で翻  
 訳/通訳の需要に応じてきました。需要は、  
 翻訳・通訳のみならず、その内容のホーム  
 ページ制作、音声/映像化、印刷など、デ  
 ザインやIT技術を伴うものまで広がりを  
 みせています。先日の新型インフルエンザ  
 の情報も、兵庫県や神戸市と連携してい  
 ち早く多言語化をして提供、また相談窓口の  
 多言語通訳についても協力体制を組みまし  
 た。神戸市の防災カードや防災マップの作  
 成の際には、企画段階から、文言、言語、  
 デザインなどの原稿内容について、担当者  
 の方が相談にいられてアドバイスをすると  
 ともに、翻訳/制作を委託され、現在は関  
 連機関への配付にも協力しています。また  
 自治体国際化  
 協会が作成し  
 た「災害時多  
 言語情報作成  
 ツール」や  
 「多言語生活  
 情報」にも翻  
 訳で関わりま  
 した。阪神・  
 淡路大震災か  
 ら一五年目を

<災害時多言語情報作成ツール>

